

## 事前準備として授業計画の作成に丁寧に取り組んだ事例

### 特別支援学校（知的障害）在籍の児童が興味関心の高い 図画工作で行った交流及び共同学習

#### ○概要

A児は、B特別支援学校（知的障害）に在籍する小学部2年生で、知的障害と自閉症スペクトラム障害の診断を受けている児童である。本事例は、初めてA児がC小学校での図画工作の授業を中心に交流及び共同学習を実施した取組である。C小学校の校内会議やB特別支援学校担任との協議を行い、取り組む教科はA児の興味・関心や行動特性等を踏まえて図画工作とした。事前に当日と同じ教材を用いて活動に慣れ、見通しをもつことができるよう個別指導を行った。また、保護者の協力を得て、学習の場に慣れるために事前にC小学校を訪問したり、絵カードを使って当日の日程を知らせたりして情緒の安定を図った。

#### 1. 対象児童について

A児：B特別支援学校小学部2年生（知的障害・自閉症スペクトラム障害）

特別支援学校（知的障害）の各教科等の内容を、各教科別の指導と各教科等を合わせた指導の中で学習している。特に、コミュニケーション能力の向上と自己をコントロールする力の向上を目指して、自分の気持ちや感じたことなどを言葉や文字で表現する学習に取り組んでいる。

#### 2. 活動のねらい

保護者の「情緒も安定してきたので、地域の学校でも自分の力を発揮したり、友達と関わり合ったりしてほしい。」という願いを受け、担任、合理的配慮協力員及び管理職による校内会議で実施について検討を行った。その結果、A児の情緒が安定してきていることや、図画工作では小学校の児童の中で自分の力を発揮できることを確認し、C小学校と協議を行い、居住地校との交流及び共同学習を計画した。

#### 3. 事前の取組と配慮

今回の事例では、居住地校交流の実施が決まった前年度末に個別の教育支援計画に必要な修正を加え、今年度の個別の指導計画（小学部2年生）は居住地校交流の実施を盛り込んで作成した。

A児に関しては、D県とE市の教育委員会、B特別支援学校とE市の小・中学校（C小学校も含む）が交流及び共同学習に関する運営協議会を組織し、交流及び共同学習に関する連絡会議を行い、各校が協力して居住地校交流の推進に取り組めるようにし

ている。

また、B特別支援学校では、居住地校交流についての理解・啓発のためのリーフレットを作成している。リーフレットは「保護者用」と「居住地校交流相手校用」を作成し、それぞれに居住地校交流に対する理解が深まるようにしている。

A児は初めての場所に不安を感じるので、事前に保護者と交流及び共同学習を行うC小学校を訪問し、校舎や教室に慣れるようにした。また、A児は見通しがもてれば落ち着いて学習できるので、交流及び共同学習があることをA児が理解しやすいように言葉と写真で伝えた上で、活動内容をホワイトボードに記入し、視覚的に確認できるようにした。さらに、交流及び共同学習の開始直前には、簡単な言葉で日程を説明し、A児が了解しているか否かを確認した。具体的には、事前にA児が居住地校を保護者と共に訪れること、事前学習で校舎や教室に慣れておくことなどの合理的配慮を行った。また、当日は、視覚的にスケジュールを絵や写真、文字にして示すことと「絵を描く」、「挨拶」、「おしまい」など簡潔な言葉で次の活動の見通しがもてるようにした。

C小学校の図画工作の題材は、A児が在籍する特別支援学校で学習している図画工作と比較すると難しい内容を含む題材であった。しかし、A児は絵を描くことへの興味・関心が高いことと、技能面について時間を掛けて取り組めば、達成が見込める内容であったことから、事前学習に十分な時間を掛けるという調整を行った。また、交流及び共同学習の実施時期に合わせて、単元の順番についてもC小学校に変更を依頼し、順番を調整することができたことで、事前学習の時間の確保が可能となった。

事前学習では、実際に絵を描く練習をしてみたり、切り取る作業をしてみたりと、活動内容を一度体験できるようにした。また、交流及び共同学習では、まとまった時間、絵を描き続ける活動を行う事になるので、実際に40分ほど活動に集中する時間を取り、長く作業を行うことに慣れるようにした（写真1）。



写真1 絵を描くA児

また、事前にB特別支援学校の担任が訪問し、視覚的な情報を手掛かりに行動するA児の特性とA児にとって分かりやすい関わり方に絞り、交流学級の児童に向けて理解啓発活動を行った。

#### 4. 活動の様子と成果

今回の取組では、図画工作の中から題材を選び、A児の特性に応じて丁寧な事前指導を行った。A児が交流先の児童に作品を認めてもらえる体験ができたことは大きな成果となった。

#### 5. 事後の取組、今後の課題

制作した作品を互いに発表する場を設けることで、A児がC小学校の児童の作品を鑑賞する機会を設けた。普段、多くの同年代の児童の作品を鑑賞する機会の少ないA児は、自分が興味のある他の児童の作品の発表を、身を乗り出すようにして見ていた（写真2）。



写真2 C小学校の児童の作品発表に興味深く聞くA児

また、C小学校の児童が、しっかり描き込まれたA児の巧緻な絵を見て、「すごい」、「きれい」など、感嘆の声を上げる場面も見られた。多くの児童に認められたA児は笑顔で喜び、自信をつけた様子がうかがえた。

今回の居住地校交流では、A児はC小学校児童と同じ学習をし、作品についても良い評価を得ることができ、また自信をつけることができた。しかし、今後、A児が進級するにつれて、他の児童と同じ題材の中でA児が学ぶためには、学習内容に更なる変更を加える必要がある。

A児の学びを大切にしたい居住地校交流を行うためには、まず特別支援学校の教員が、小・中学校等の教育課程を把握し、その上で、他の児童と同じ題材で、A児がどのような学びができるのかを考える必要がある。また、そのような題材がない場合にも、特別支援学校の教育課程と小・中学校の教育課程の特徴を共通理解しておくことが重要である。